

大学・地域共創プラットフォーム香川 2025 年度中長期計画達成状況評価表

令和8年9月

取組内容	2025 年度計画	2025 年度実施内容	自己評価
1 高大連携事業・進学促進事業(進学・教育部会) ①出前講座・体験講座等への講師派遣 1) 出前講座(せとうち観光専門職短期大学) 高校生等を対象に大学等の教職員が出前講座を実施 出前講座等の講座名や内容を年度初めに情報公開し、活用について積極的に働きかける 2) 体験講座(徳島文理大学) 大学等の特色を生かした講座開設により、小学生や中学生の学びに向かう力を育成し、課題発見能力や問題解決能力を高める。 3) 探究型学習支援プロジェクト(四国学院大学) 高校の「総合的な探究の時間」に大学等の教職員を派遣して指導・助言を実施 ②県内大学等合同進学説明会(香川県) 県内高校生の県内大学等への理解を深め、県内高校生の県内大学等進学を促進することを目的として、県内大学等が高校に出向き、合同で説明会を実施する。県内大学から県内就職した卒業生をロールモデルとして招聘し、県内大学等の魅力を発信 ③教員対象県内大学等合同進学説明会(香川県・四国学院大学) 高校教員を対象とする県内大学等合同の説明会・交流会の実施 ④高大連携キャリアデザイン研修(高松大学・高松短期大学) 県高等学校 PTA 連合会との連携による保護者対象の研修、会報誌を活用した広報の実施 ⑤共同の広報活動(香川県) 県内大学等への進学増加や若者の県内定着に繋げることを目的として、ホームページ、メディア等を活用して広報活動を積極的に行う。 ⑥外国人留学生対象の合同進学説明会(香川短期大学) 日本語学校で学ぶ外国人留学生を対象とした合同進学説明会を実施する。	①出前講座・体験講座等への講師派遣 1) 出前講座の情報発信と実施(目標 85 件) 2) 香川わくわく子ども大学(目標 13 講座) 3) 高校の「総合的な探究の時間」で大学等の教職員が指導・助言(目標 2 校) ②合同進学説明会の実施(目標5校) ③合同大学説明会・交流会の実施 1 回 ④高大連携キャリアデザイン研修開催(目標1回) 「高 P 連だより」への記事掲載(目標 2 回) ⑤共同の広報活動 1) オープンキャンパスの共同広告 ・日程等の公表(目標 1 回) ・プラットフォーム構成校の相互広報 2) ホームページの活用 (目標年間 20 件以上掲載) 3) 高校設置のパンフレットスタンドを活用(目標 随時実施) 4) かがわキャンパスガイドの活用 ・周知用チラシ作成、配布 県内中学・高校生及び県内外高校生への情報発信(目標 1 回) 5) 校長会等での周知、協力依頼(目標 3 回) ⑥外国人留学生対象合同進学説明会(目標 3 校)	①出前講座・体験講座等への講師派遣 1) 実施件数: 87 件 出前講座の情報を各高校へ郵送・周知、アンケート調査を実施 2) 開講数: 16 講座、参加者数: 小学生 173 名、中学生 11 名(親子 153 組) 高松大学(2 講座・8/9)、徳島文理大学(8 講座・7/20、7/26、8/2、8/5、8/6、8/9)、香川短期大学(5 講座・8/20、8/21、9/27)、せとうち観光専門職短期大学(1 講座・8/20) チラシ配布、自治体広報誌・SNS 等により募集案内※産学官共創チャレンジ支援補助金活用 3) 7/4 の三本松高校に講師派遣。10 大学等から 20 名 第 6 回香川県高校生探究発表会開会式(3/16)に出席し、取組を説明。「探究型学習支援プロジェクト」のチラシを配布 ②実施校数: 4校 県内高校 4 校(延べ 1,068 名)で実施。琴平高校(5/10)香川中央高校(6/12)小豆島中央高校(7/18)高松東高校(9/24)、高松東高校では、教職員を対象とした個別相談会も合わせて実施。 ③実施校数: 1 校 高松東高校での県内大学等合同進学説明会と同時開催(9/24)。教員が約 20 名参加し、特色や入試等の説明・質疑応答を実施。 ④高大連携キャリア研修 大学等合同説明会(11/22) 会場: 香川短期大学 参加者数(保護者、生徒、教員)100 名 機関紙「高 P 連だより」に県内大学等の紹介記事を掲載(10 月、2 月) ⑤共同の広報活動 1) ホームページ掲載 1 回 高校訪問により相互広報を随時実施。 2) ホームページ更新 14 回 3) 随時補充 各大学が高校訪問時に随時補充。 4) デジタルキャンパスガイドの活用 周知用チラシ約 18,000 枚配布 5) 2 回 7 月の校長会、3 月の探究活動発表会での協力依頼を実施。 ⑥実施校: 1 校 穴吹ビジネスカレッジ日本語学科で開催(7/25)。せとうち観光専門職短期大学、高松大学・高松短期大学、徳島文理大学、香川短期大	①出前講座・体験講座等への講師派遣 1) 学問分野ごとの講座数にバラツキがあるものの内容は充実しており、実施数は概ね目標を達成している。実施後のアンケートへの回答も概ね好意的なものであったが、回収率が低いのが課題であり、調査方法の工夫が必要である。今後は、ニーズの高い講座に絞ること、大学・地域共創プラットフォーム香川独自の講座を開設することも検討課題である。 2) 講座開催校は 1 校増加、講座数は 16 講座。うち、産学官連携講座は 8 講座、中学生にも対象拡大して、さらに充実した内容となった。参加者数は、小中学生 184 名であり、アンケート結果では、「とても満足できた」81.0%、「満足できた」17.3%7%であった。一方、県内小学生全員へのチラシ配布を止めたため応募者は定員の 1.1 倍(昨年度 5.2 倍)と激減しており、広報の在り方が課題である。 3) 香川県高校生探究発表会の開会式を利用してチラシを配布、説明した結果、実施できた。しかしながら目標の 2 校の達成はできなかったため、次年度に向けて周知方法が課題 ②開催した高校へのアンケートでは全ての高校が「満足」と回答する等、開催した高校では高い評価を得ることはできた。ただし、多くの高校では業者による大学等開催説明会を実施しており、今後、本取組に参加する高校の大幅な増加は見込めない状況であり、目標である 5 校は達成できなかった。 ③開催時間は 2024 年度に比して少し長くなったものの、生徒対象の合同進学説明会と同時開催のため短時間での開催となった。高校と調整して時間数を確保できるかが課題 ④R7 においては、前年を上回る参加者があり充実した研修会・説明会となった。県内の不特定多数の高校生保護者に説明する機会は他にはない。高 P 連が主催する進学・就職に対応した講演会の後大学・短大がそれぞれの特色を説明する流れになるので、保護者の意識が高い状態で各大学・短大の説明を聞いていただくことができる貴重な場となった。R7 は会場の香川短期大学の駐車場が利用

		学、四国学院大学が参加。	できたことも参加者増につながったように思われる。一方、アンケートに関する周知が十分に行えず回収率が悪かったとの反省があり、R8 にはアンケート内容とともに、周知方法についても検討が必要である。 ⑤共同の広報活動 1)計画通り実施(4/16) 2)進学・教育部会関係は 14 回更新(昨年度比 6 回増加)、プラットフォーム全体では 38 回更新。タイミングよく掲載できなかったことが課題である。 3)パンフレットスタンドから資料を入手する生徒も少なからず存在することから、生徒が県内大学・短大の情報をキャッチする手段の一つとなっている。ただ、高校によっては十分機能していない状況もあり、各大学・短大が活用をお願いすることが必要である。 4)計画どおり実施。HP は、R7 は、11,166PV であった。 5)香川県高校長会、香川県教育研究会「探究部会」等、様々な機会にプラットフォームでの取組や県内大学等への理解を深める必要がある。 ⑥目標の 3 校には届かなかったが、実施した日本語学校からはオープンキャンパス参加や入試を経て入学につながった事例が複数あり、成果が得られた。 【評価 B】
2 大学等連携強化事業(進学・教育部会) ①大学等間の単位互換(香川県立保健医療大学) 多様かつ柔軟な学修を推進し、より充実した学びを大学生等に提供することを目的として、県内大学等の開設科目の相互履修と単位認定を実施する。 ②大学等教員の FD・SD 研修(香川大学) 授業内容や授業方法の質向上、大学運営や教育活動支援の資質向上を図ることを目的として、大学等教職員研修を共同実施する。 地域における高等教育の中長期グランドデザイン、数理・データサイエンス・AI教育、リスクマネジメント等を研修内容とする。 ③国際交流会(学生)(香川高等専門学校) 県内大学等の外国人留学生と日本人学生の交流を通じて、地域の伝統・文化等の理解、相互理解、友好関係の深化を図ることを目的として、各大学等の外国人学生及び日本人学	①大学等間の単位互換 (目標 ・登録者数 14 人・新たに授業科目の共同開発を検討) ②大学等教員の FD・SD 研修(目標 2 回) ③国際交流会(学生) (目標 1 回) ④リスクマネジメント活動(目標 1 回) ⑤地域における高等教育の中長期グランドデザイン検討会 (目標 1 回・外部講師招聘による研修会も実施) ⑥数理・データサイエンス・AI 教育事業 「授業用コンテンツ制作委員会」にてコンテンツを作成 令和8年度試験運用に向けての準備 (目標 研修会 1 回、 他県研修会の随時案	①大学等間の単位互換 令和 7 年度履修案内(単位互換提供科目数 626)を関係大学等で共有(3/31)、受講者数 24 名 (15 科目) ②大学等教員の FD・SD 研修 ・「地域の中でこれからの大学が求められる役割 ～社会環境の変化や知の総和答申を踏まえて～」(11/20、PF 香川主催)【参加者】25 名 ・危機管理シンポジウム「レジリエントな地域を創る防災教育 ～人口減少と巨大災害に負けないため、防災教育について一緒に考えてみませんか！～」(10/28)【参加者】172 名(会場 82 名、オンライン 90 名) ・数理・データサイエンス・AI 教育強化拠点コンソーシアム四国ブロックシンポジウム(3/5)【参加者】84 名(会場 45 名、オンライン 39 名) ・大学等教職員の共同FD・SD研修会「第4期認証評価の観点、IR の取組」(9/29、3 短期大学、オンライン)【参加者】12 名	①受講者数が目標人数を大きく上回ったことから、単位互換提供科目数の増加などにより、一定の成果が得られたと考えられる。 ②計画通り実施できた。FD・SD の共同実施は四国地区大学教職員能力開発ネットワーク(SPOD)でも行われており、整理が必要である。 ③複数の大学等から、多国籍の学生が複数名参加し、成功裏に終わった。参加した留学生にとって、有意義な経験になったものと思われる。 ④計画通り実施できた。香川大学で行われるイベントに構成大学等から積極的に参加するよう働きかけたい。 ⑤計画通り実施できた。中央教育審議会(答申)「我が国の「知の総和」向上の未来像 ～高等教育システムの再構築～」に関する研修内容であったため

生間の交流の機会を学生祭などを活用して設け、交流を促進する。 ④リスクマネジメント活動(香川大学) 災害等に対するリスクマネジメント体制の構築を目的として、体制構築の検討及び香川大学危機管理シンポジウムに参加する。 ⑤地域における高等教育の中長期グランドデザイン検討会(徳島文理大学) 高等教育の長期的な展望等について議論し、各県内大学の教育改革・改善を図ることを目的として、有識者による講演などを通して、高等教育の中長期グランドデザインについて意見交換・検討を実施する。 ⑥数理・データサイエンス・AI 教育事業(香川大学) 県内高等教育機関の学生が、数理・データサイエンス・AIを習得できるよう教育体制の構築・普及を図り、共同授業を実施することを目的として、授業用コンテンツを作成するとともに、教育体制構築に係る情報交換やシンポジウム等を行う。	内)	・大学等教職員の共同SD研修会「ゲームで考える職員間のギャップ～働き方や考え方を尊重する講座～」(9/29)【参加者】19 名 ③国際交流会(学生) 県内大学等の留学生・日本人学生を対象とする交流会を開催(10/25) 【参加者】県内大学等留学生 18 名(韓国、タイ、台湾、中国、ベトナム、ミャンマー、メキシコ)、日本人学生 7 名 ④リスクマネジメント活動 危機管理シンポジウム(10/28、香川大学主催、PF 香川共催) 【参加者】172 名(会場 82 名、オンライン 90 名) ⑤地域における高等教育の中長期グランドデザイン検討会 講師(リクルート進学総研所長 小林浩氏)を招聘し、県内大学等の担当者向けの講演を実施、意見交換(11/20) ⑥数理・データサイエンス・AI 教育事業 ・数理・データサイエンス・AI 教育強化拠点コンソーシアム四国ブロックワークショップ(12/9)【参加者】58 名(会場 28 名、オンライン 30 名) ・共通の教材を授業用コンテンツ制作委員会にて制作(令和 8 年度試験運用開始)	大学等の関心の高いテーマとなった。 ⑥計画通り実施できた。この事業をさらに広め、充実させるよう努めたい。 【評価 A】
3 キャリア支援事業(就職・産業振興部会) ①「かがわーくフェア」 ②業種別オンライン県内企業見学ツアー ③うどん県の自治体で働こう大懇談会 ④外国人留学生等と県内企業の交流会・合同企業説明会	①かがわーくフェア開催:2 回 参加者 320 人 ②オンラインでの企業説明会開催:3 回 参加学生 120 人 ③懇談会の開催:1 回 参加学生 40 人 ④交流会開催:1 回	①3回 参加者数 394 人 ・令和 7 年4月 19 日 127 人 ・令和 7 年9月 27 日 135 人 ・令和 8 年3月 9 日 132 人 ②オンライン 3 回 参加者数 121 人 ・令和 7 年 8 月 21 日 10:30～ 42 人 ・令和 7 年 8 月 21 日 13:30～ 43 人 ・令和 7 年 8 月 22 日 10:30～ 36 人 ③2 回 参加者数 54 名 ・令和 7 年 9 月 30 日 10:00～ 27 人 ・令和 7 年 9 月 30 日 13:30～ 27 人 ④交流会令和 7 年 10 月 15 日開催 参加企業 13 社、学生等 64 人	①全3回とも参加企業数(令和 7 年4月 19 日:企業 100 社、令和 7 年9月 27 日:企業 100 社 令和 8 年3月 9 日:企業 152 社)に対し、参加者数が低調であった。 ②学生参加人数は、昨年の 112 人から 121 人へと増加した。学生アンケートによる評価は、参加学生のほぼ全員が「満足」と「やや満足」という結果であり「短時間で多くの企業情報を得ることができ、有意義な時間となった」等の感想があった。今後は、学生や企業からの要望等を踏まえ、インターンシップ情報を提供できる時期の追加開催を検討したい。 ③学生参加人数は、昨年の 44 人から 54 人へと増加した。学生アンケートによる評価は「満足」と「やや満足」の合計が 100%となっており「様々な自治体と直接話をすることができ、多くの情報を得られた」「現役職員の方から現場の雰囲気や貴重な話を聞くことができた」等の感想があった。 ④具体的な採用・内定等の直接的・短期的な採用成果には至らなかったが、県内企業における外国人材採用への理解促進、教育機関及び海外人材との関係構築、広域的な人材アプローチ体制の整備等、中長期的な人材確保に向けた基盤形成に一定の成果を得られた。 【評価 B】

4 地域企業魅力発信強化事業(就職・産業振興部会) ①学生による企業インタビューシップ ②高校・大学等のイベントを活用した地域の魅力発信 ③地元中小企業魅力発見ツアー ④学生と県内企業による、「人材定着」をテーマとする課題解決型授業	①インタビューシップの実施:高校 5 校 大学 1 校 ②高校・大学等のイベントにブース出展:大学又は高校 2 校 ③地元中小企業見学ツアー実施:2 回 ④県内企業と連携した課題解決型授業の実証的な実施	①インタビューシップを実施 ・高校 5 校 参加者延 260 人 (三木高校、高松商業高校、飯山高校、志度高校、観音寺総合高校) ・大学 1 校・高松大学 参加者延 14 人 ②高校・大学等のイベントに 4 回ブース出展 【高校】 ・飯山高校:令和 8 年 1 月 28 日 118 人 【大学等】 ・四国学院大学:令和 7 年 10 月 12 日 208 名 ・徳島文理大学:令和 7 年 10 月 25 日 234 名 ・高松大学、高松短期大学:令和 7 年 11 月 1～2 日 113 人 ③地元中小企業見学ツアーを 2 回実施 【高校生】 ・令和 8 年 3 月 23 日 16 名 【大学生】 ・令和 7 年 9 月 29 日 6 名 ④県内企業と連携した課題解決型授業を実施 参加学生 10 名	①地元の企業経営者と学生との間で活発な議論が行われ、目的を十分に達成した。 ②県産農水産物の PR は効果的に行えたものの、企業・団体の情報・魅力発信については効果が限定的であると感じた。発信の仕方を再考し、毎年県内大学等で行うことにより、少しずつでも団体の事を知っていただければと考える。 飯山高校にて 県内企業20社がブースを出展し生徒に「業界」や「仕事」について説明・紹介し、「働く こと」について知ってもらい、地元就職検討の機会を創った。 ③「企業の製造現場の見学に加え、現場社員の話を聞くことで、製造現場の様子だけでなく、開発にける取り組みや、仕事への向き合い方を知るきっかけとなった。」「大学で学んだことが、基礎としてどのように製品に展開し、かつ、何を学ばなければならないかを知ることができた。」などの感想があり、学生にとって、地域企業の持つ技術力を知るきっかけになったかと評価できる。 参加者からは、経営者や社員より仕事の内容ややりがいなどの生の声を聞くことができたとの感想が寄せられた。また、社内の雰囲気やものづくりの現場を実際に見学・体験することで、県内企業の魅力を実感し、将来について考える契機となったとの意見もあった。 さらに、ランチミーティングでは、普段接する機会の少ない若手経営者との懇談を通じて、学生自らが視野や考え方を広げる機会となった。 ④香川県商工会議所連合会(高松商工会議所)のコーディネートのもと、地元企業 5 社の協力を得て、PBL 型の授業として香川大学経済学部において「(特)働き方デザイン演習」を集中講義で開講した。参加者数は限られたが、企業関係者と学生が相互に学びあう機会の創出につながった。 【評価】 A
--	---	--	---

5 地域活性化実践事業(地域活性化部会) ①学生等による観光等地域資源の情報発信 ②産学官関係者の連携強化に向けた交流促進 ③学生との連携を図る活動情報の集約・発信 ④若者の UJI ターン促進のための意識調査 ⑤県内を舞台にしたフィールドワークの促進	①情報発信:2回、広報へのアドバイス:1回 ②交流会開催:2回 ③情報発信:5回 ④調査結果の共有及び対策の方向性の提案 ⑤実証的取組の実施及び事例紹介	①学生によるまんのう町の観光資源体験取材:2回(11/26、11/27) 広報誌・HP・SNS 等への若者目線でのアドバイス提供:1回 ②産学官連携交流会「なんがでっきょんな香川」の開催 3/17 テーマ:地域課題を産学官で考える 参加者:63名 ③自治体等からの学生連携活動情報を集約し、各大学へ発信 以下8件の情報を発信し、合計で延べ89名の学生が参加 ・高松市「サンポート高松トライアスロン」 ・丸亀市「丸亀市障がい者スポーツ大会」 ・土庄町「第43回小豆島まつり」 ・香川県「せいしょうねんラボ」 ・多度津町「瀬戸内国際芸術祭(高見島)」 ・土庄町「第44回瀬戸内海タートル・フルマラソン」 ・多度津町「たどつ桜たんページェント」 ・高松市「ノジマTリーグ 2025-2026 シーズン」 ④県外在住の若者等を対象としたインタビュー調査の実施 ・大阪移住フェア来場者(25組)及び県外大学生(6名)への調査 ・部会にて調査結果を共有し、不動産業者との連携や「お試し移住」等の施策の方向性を検討 ⑤高松市塩江地区での地域課題解決型フィールドワークの実証実施 ・9月、12月の2回(各2泊3日)実施 ・県外在住者5名、県内学生2名が参加 ・地域住民への課題解決案の提案	①学生がまんのう町を体験取材し、自治体 SNS で発信した投稿はいずれも1万ビュー以上を記録し、特に「おしゃピク」動画は高い反響を得た。若者目線の広報アドバイスも行い、地域の魅力発信と理解促進に貢献した。 ②「地域課題を産学官で考える」をテーマとした交流会を開催し、産学官の多様な関係者63名が参加した。相互理解を深めることで連携の土壌を整え、課題解決に向けたネットワーク構築を計画通り着実に推進した。 ③活動情報の集約・発信を強化した結果、計画を上回る8件の情報を発信し、延べ89名の学生が実際の活動に参画した。大学と地域の接点を増やすことで、より広範囲かつ実効性のある連携体制を創出することができた。 ④県外在住者への調査により、住環境への不満や車社会への懸念といった具体的な移住の壁を特定した。部会において課題解決に向けた施策の方向性について議論が行われ、今後の各自治体での施策検討の材料となった。 ⑤高松市塩江地区での実証を通じ、住民との深い交流が関係人口創出に有効であることを確認した。取組内容について、部会において構成員へ共有を図った。 計画通り取組を実行し、学生等の地域理解や産学官連携及び地域づくりの促進を図ることができた。 【評価 A】
---	---	---	---

【評価】

S: 当初の計画を超え、目標を上回る顕著な成果が得られている。

A: 当初の計画を着実に実行してきており、目標に対し十分な成果が期待できる。

B: 当初の計画をほぼ実行できているが、一部に遅延、未達等の取組があり、目標の達成に継続した努力が求められる。

C: 当初の計画について半数以上の取組について未達であり、取組や目標に関して一定の見直しが必要である。

D: 当初の計画を大幅に下回っており、目標の達成見込みがないため、計画に関する抜本的な見直しが必要である。

令和7年度総合評価
A

数値目標の達成状況① 自県大学進学者の割合 21.0%	数値目標の達成状況② 県内大学卒業生の県内就職率 52.0%
自県大学進学者の割合 19.0%(令和7年4月入学)	県内大学卒業生の県内就職率 43.0%(令和8年3月卒業)